

|          |   |                      |   |
|----------|---|----------------------|---|
| a 学校教育目標 | 「なりたい自分」に向かって切磋琢磨する子供の育成<br>—自ら伸びる とともに伸びる— | b 経営理念<br>ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 主体的に思考・判断・表現し、夢に向かって行動できる子供の育成<br>【ビジョン】(自校の将来像) 「自ら伸びる とともに伸びる」目標に向かって切磋琢磨する姿のある学校<br>・主体的・対話的で深い学びをめざす子供<br>・誇りとやりがいを持ち共に学び高め合う教職員<br>・挑戦・失敗を共に評価し応援する保護者・地域 |
|----------|---|----------------------|---|

| 評価計画     |                                       |   |  | 自己評価   |                    |                    |            |      | 改善方針   | 学校関係者評価   |  |   |   |   |
|----------|---------------------------------------|---|--|--|--------------------|--------------------|------------|------|--|---|--|---|---|---|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標                              | e 目標達成のための方策  | f 評価項目・指標  | g 目標値  | 10月                | 2月                 | i 達成度      | j 評価 | k 結果と課題の分析   | n 改善方針  | l 評価   |   |   | m コメント  |
|          |                                       |   |  |  | h 達成値              | h 達成値              |            |      |  |   | イ  | ロ | ハ   |   |
| 確かな学力    | 基礎学力を定着させ、「主体的・対話的で深い学びを進める力」を育成する。   | ・コース別・少人数指導の推進<br>・反復練習の徹底<br>・効果的な帯タイムの計画・実施<br>①文法・ことば・聞き取り問題・CBT・模擬学力テスト等の実施<br>②認知機能トレーニングの実施           | 国語科・算数科・理科の単元末テスト結果(各学期)<br><br>標準学力調査結果(12月実施)  | 各学期各教科<br>知識・技能 平均85点以上<br>思考・判断・表現 平均75点以上<br>全国平均以上                            | 88%<br>82%         | 87%<br>78%         | 100%       | A    | ・10月と比べて、数値は下がったものの、目標値を2項目とも達成することができた。習熟度別学習を取り入れることが学力の定着につながったと考える。  | ・授業における、思考・判断・表現の場の充実<br>・のびのびタイムでの習熟度別学習の継続<br>・標準学力調査の分析による成果と課題の共有   | ○  |   | ・主体性を引き出す環境づくり校内の至る所に児童の興味を喚起する「やりたい」と思わせるネーミングや工夫が凝らされており、学習意欲を高める優れた教育環境が構築されている。<br>・全体として授業に臨む児童の表情が明るく、特に6年生においては非常に高い集中力を持って学習に励む姿が見られた。<br>・ノート指導の充実により、記述内容が非常に緻密であり、児童一人ひとりの深い学びと学習への強い意欲が結実している。<br>・読書活動への継続的な取組は、児童の集中力養成に大きく寄与している。また、本を媒体とした他者とのコミュニケーションを大切にしている姿勢も育まれており、多面的な効果が表れている。<br>・思考力・判断力に関する指標は一定の達成を見ているものの、10月から2月にかけての数値の下降傾向が懸念される。次年度に向けて、年間を通じた安定的な定着を図るための指導の工夫を期待したい。 |   |
|          |                                       | ・学校図書館教育「『ほんにし』たしむ図書館」プロジェクトの推進<br>①多様な読書活動の計画と展開<br>②「読みたくなる」環境づくりの推進                                      | 年間読書冊数<br>1・2年生50冊、3年生40冊、4・5・6年生30冊<br>月間読書冊数<br>全児童1冊以上  | 達成した児童の割合<br>80%以上<br>達成した児童の割合<br>95%以上   | 87%<br>88%         | 91%<br>78%         | 96%        | B    | 年間読書冊数は、目標を達成することができた。月間読書冊数は、達成できなかった。理由は、数値を図書館で借りる冊数でカウントしていることや電子書籍サービスを利用している児童がいるためである。朝読書も定着しており、ほぼ100%達成している。  |   |  |   |   | ・司書、司書教諭、子ども司書、委員会のさらなる連携<br>・教師による読み語りなど図書を手取るきっかけづくりの充実<br>・低学年、高学年に分けたビブリアバトル大会など児童が主体となる取組の実施   |
|          |                                       | ・「3つの『たい』話」がある授業づくりの徹底<br>①「やりたい」 課題設定の場<br>②「話したい・聞きたい」 思考・表現の場<br>③「もっと伸びたい」 振り返りの場<br>※ゴールイメージからの単元・授業構成 | 教職員アンケートによる評価<br>「課題設定場面で『?』や『!』を生む工夫をしている」<br>「思考・表現場面で『話す』『聞く』必要性を生む工夫をしている」<br>「ふり返りで『伸び』を自覚できる工夫をしている」<br><br>児童アンケートによる評価<br>「『やってみたい』『理解したい』思いを持って学習している」<br>「進んでみんなと考えを話し合っている」<br>「授業の終わりには自分の考えが深まっている」 | 各項目肯定的評価<br>80%以上  | 100%<br>87%<br>75% | 100%<br>90%<br>54% | 84%        | B    | 10月と同じく、目標値を6項目中5項目とも達成することができた。そのうち3項目が10月と比べて、数値が2〜3ポイント伸びていることから、校内研修を通して、教職員が授業を改善してきた成果である。一方で、達成できなかった「ふり返りの場」では、特に教職員アンケートにおいて大幅に数値が下がっていることから、教職員の中で、児童のどんなふり返りが「伸び」を自覚しているかが、明確になっていないことが課題である。 |   |  |   |   | ・ふり返りの場の交流<br>・各学級におけるふり返りの肯定的評価<br>・来年度に向けた研究方針・内容の共有  |
| 豊かな心の育成  | 自他を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。        | 自分や自分を取り巻く人・環境を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育成する。   | ・親和性の高い集団づくりの推進<br>・「自己決定の場」を大切にしたい学びづくりの推進<br>①特別活動の改善と充実<br>②コミュニティ・スクールを活用した「ふるさと学習」の推進   | 児童アンケートによる評価<br>「学習や生活で自分で考え決める場面が増えている」<br>「自分や自分の周囲の人・ふるさとにはよいところがある」          | 各項目肯定的評価<br>80%以上  | 84%<br>94%         | 90%<br>98% | 100% | A  | ・縦割り班活動(異年齢集団)を生かした活動の充実<br>・委員会活動を通じた企画力の向上<br>・地域学習を実施した後の振り返りの充実<br>・授業内での自己決定の場の設定                                    | ○  |   | ・児童アンケートの各項目(1年生から6年生まで)において、発達段階に応じた適切な表記・問いかけがなされているか、また実態を正確に反映した評価ができていないか、継続的な検証を期待したい。<br>・学校ボランティアの方々による献身的な支援が、教育活動の基盤を支えている様子が強く伝わってくる。今後も地域と一体となった教育環境の維持・発展を願っている。<br>・「自己決定の場」を大切にしたい学びづくりや、ふるさと学習におけるチャレンジ機会の創出など、児童が自ら考え決定する力を育む取組は非常に意義深い。   |   |
| 健やかな体の育成 | 生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。         | 「運動は楽しい」「やれば伸びる」「もっとしたい」という主体的態度を育成する。  | ・「運動したくなる環境設定」のある体育科授業・体育的行事の充実<br>①個に応じた場の設定<br>②異学年交流の積極的導入<br>③意欲を高めるプロセス評価   | 教職員アンケートによる評価<br>「『やってみたい』と思わせる導入・課題設定の工夫をしている」<br>「多様な学びや挑戦のできる環境設定や評価の工夫をしている」 | 各項目肯定的評価<br>80%以上  | 100%               | 91%        | 100% | A  | ・やや数値が落ちたものの、目標値を達成することができた。実技研修や低中高学年ブロック及び全体での交流を行ったことが授業の工夫改善につながったと考える。児童の運動に対する意識について把握できていない点が課題である。                | ・体育授業の充実<br>・児童アンケートの実施<br>・学校全体での統一した取組の実施と評価   | ○ |   | ・学校だより等を通じた日々の情報発信が、幼保での体力づくり(持久走等)の参考になるなど、具体的な連携に結びついている点は特筆すべきである。<br>・「運動したくなる環境設定」に向けた実務研修や、異学年交流を積極的に取り入れた体育授業の改善により、目標値を達成している点を高く評価する。      |
| 働き方改善    | 新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。 | 地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程を実現する。  | ・コミュニティ・スクールの積極的推進と計画的活用<br>①積極的な情報発信<br>②学校運営協議会の計画的開催  | 学校だよりなどを活用した広報活動 月1回以上<br>コミュニティ・スクール学校運営協議会 年4回開催                               | 100%達成             | 100%               | 100%       | 100% | A  | ・目標は達成し、地域との連携の基盤は整った。今後は開催だけに留めず、地域の声を学校運営や具体的な教育活動に反映させるかが課題である。<br>・時間外勤務の目標達成は81%に留まった。特定の時期や業務の負担偏りが、時間外勤務の障壁となっていた。 | ・学校運営協議会での「熟議」の活性化<br>・地域ボランティアの参画を促す仕組みを整えた教育活動の充実<br>・校内業務の優先順位の再徹底<br>・組織的な業務分担の平準化 | ○ |   | ・いつも発行される学校だよりを楽しみにしている。学校の取組が地域にとっても良い刺激や参考になっている。<br>・教師と児童たちが心を通わせ、共に歩んでいる姿が伝わり、非常に心強く感じる。<br>・心に残る10周年記念行事を通じて、地域全体で学校を支えていく連帯感がさらに高まったと実感している。 |
|          |                                       | 教職員が健康でいきいきとやりがいを持ち勤務できる環境づくりを推進する。   | ・全教職員による教育ビジョン策定会議の計画的実施<br>・業務改善の継続的実施  | ビジョン策定会議 年4回開催<br>市「学校における働き方取組方針」の「勤務上限目安時間」時間外勤務時間月45h以内                       | 100%達成             | 74%                | 81%        | 81%  | B  |   |  |   |   |   |

【j:自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。